

エルケアが兵庫県尼崎市にオープンする新型店舗のフィットネスエリア

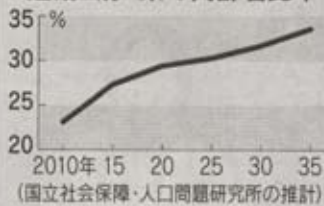


高齢者急増にらみ異業種も

高齢化進展で急拡大が見込まれる近畿の介護需要を取り込もうとする動きが、幅広い業種に広がっている。ロングライフホールディング子会社のエルケア（大阪市）は、デイサービスとフィットネスを組み合わせた複合施設を展開。ケンセスポーツ（兵庫県尼崎市）や日本新薬など異業種も介護関連の事業を強化する。成長性がある内需産業の柱として育てようとする企業が増えている。

介護周辺需要取り込め

近畿2府4県の高齢者比率



エルケア—— 運動用エリア併設 日本新薬—— 流動食事業を強化

近畿2府4県は65歳以上の高齢者の増加速度が全国平均を上回ると予測される。国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると2015年の65歳以上の高齢者人口は10年比で15・9%増の522万人に達する。全国の高齢者人口の約15%を占める巨大市場だ。将来の介護予備軍である40～60歳の女性を囲い込もうと知恵を絞るのが、在宅介護事業を手掛けるエルケア。デイサービスとフィットネスを組み合わせた新店舗「デイサービス塚口」を11月上旬にも尼崎市にオープンする。当面は10店舗まで拠点を増やす。介護関連施設に送迎する中高年女性によるフィットネスの利用が期待できるほか、デイサービスの顧客も利用できるよう

にする。他の介護関連施設にない付加価値を付け、競争力を高める。